

ヲ客室ニ傳フルコトナク且船体ハ前ニ述タル如ク縱横ニ區劃シ諸動力及重量ハ甲板以下ニアリテ硬固ナルキールニ取付ケアルヲ以テ船体ノ震動甚シカラズ旁以テ旅客ノ不愉快ヲ減スルヲ大ナリ此船ハ先ツ試験ノ爲建造セシモノニテ其結果如何ニ據リテ次回建造ノモノヘ多少ノ改良ヲ施スト云ヘリ工事落成ノ上ハ當分バルチモールハヴナ間ノ旅客郵便物及小荷物運送ヲナシ追テ外洋定期航海ヲ開始スル目算ナリ此新形蒸氣船ノ目論見ハ瀛船營業上ニ一大變動ヲ起シ將來ニ於テハ旅客又ハ貨物一方ノミヲ搭載スル瀛船出現シテ恰モ鐵道ニ旅客列車ト荷物列車アル如クナルベシト該瀛船ノ目論見者ハ言居レリ(以上三件西谷)

○傾斜塔

シカゴ博覽會ニ於テ名聲ヲ博スル爲メビーザノ名塔ヲ凌駕セントスル傾斜塔ヲ築造セント計畫シ居ルモノアリビーザノ塔ハ高百七十九呎ニシテ傾斜スルヲ十三呎ナルガシカゴノ塔ハ高二百二十五呎下部七十五呎平方ニシテ傾斜スルヲ百呎以上ノ目算ナリ同塔計畫者ハカナヂヤノ人ジュー、ビー、ハルベネーニシテ其構造ハ巨大ナル肱木形ヲ爲シ地形以上ニ使用スル鋼鐵ハ五百噸ナルベク又最上階ニハ八十噸ノ目方ヲ載スルニ耐ユベシ

○鋼鐵管

鋼鐵管ノ需用將ニ煉鐵管ニ超越セントス元來米國ニ於テハ鑄鐵管ハ英國ヨリ輸入スル煉鐵板ニ比シ高價ナルヲ以テ給水管ニハ煉鐵板ヲ使用シ居レリ又英國ニ於テハ鑄鐵ノ多量ナルト鑄造所ノ多キトニ因リ鑄鐵管ハ今尙最上地位ヲ占メ居ルナリ然ルニ米國ニ於テハ鐵板ヲ以テ管ヲ製造スルノ術益歩ヲ進メケルガキルカルダーノ鋼鐵管會社ノ如キモ煉鐵ヨリハ鋼鐵管ノ方優レリト云フニ至レリ土木協會々員ラッセル、ダンカンノ云ク煉鐵及ヒ鋼鐵管ハ鑄鐵管ニ比シ廉價ニ製造シ得ベシト又鋼鐵ニテ造リタル管ハ煉鐵管ニ比スレバ手間

質僅少ナル上鑄鐵及ヒ煉鐵管ヨリ腐蝕スルヲ遲キノ利アリ或人云ク其腐蝕ヲ豫防スルニハ亞鉛ヲ被セ然ル後チ土瀝青ヲ塗ルカ或ハチヤン、タール、石腦油亞麻油及ヒ石膏ヲ塗ルヲ宜シトス尤モ塗材湯中ニ於テハ二百五十度ノ溫度トナシ同溫度ニナル迄管ヲ塗材中ニ入レ置クベシト又強力ニ就テモ鋼鐵管ノ方強シダカン云ク鋼鍍ハ煉鐵ヨリ強キ一、三倍ナル故ニ鋼鐵管ノ厚ハ煉鐵管ノ厚ノ七割七分ニテ可ナリ云々

(右二件 The Building News, May 22, 1891 中達)

○サー、ジョン、ホークシノウ氏畧傳

サー、ジョン、ホークシノウ氏ハ夙ニ俊才ノ名アリ長シテ土木業ニ從事シ曾テ歐洲各國同盟シテ蘇士運河ヲ開クニ當リ使命ヲ帶ヒテ其會ニ臨ミ爾後愈

ヨ工師社會ニ尊重セラレタル人ナリシカ今其訃音ニ接シタルヲ以テ茲ニ略傳ヲ掲ク氏ハヘンリー、ホークシノウ氏ノ子ニシテ千八百十一年英國リーツニ生レ幼ニシテ郷校ニ入り

後チヤイレス、フアレル氏(築路法ヲ以テ有名ナリシ人)ニ質ヲ委シヨークシヤニア州ニ於テ築路ノ業ヲ修メ後ランカッシャニア州鐵道敷設ノ計畫者アレキサンドル、ニムモト氏ノ助手ニ擧ケラレ

大ニ其事業ニ與リシカ千八百三十一年ニムモト氏死去ノ後ハ又師事スル所ナカリシ千八百三十二年南米ウエネチア國ノ聘ニ應シ其府アロニ至リ將軍ポリバー氏ノ英國會社ヨ

リ買入レタル銅山ヲ監督モセリ千八百三十四年病ニ罹リ歸國シ千八百三十六年英國工師會ニ於テ該鑛山ノ實況ヲ詳述シ千八百三十八年其在米中調査セシ風俗記ヲ刊行セリ

千八百三十五年齡二十四歲ニシテマンチヌスターホルトン間鐵道ノ技師ニ擧ケラレ其線路ニ於ル隧道開鑿中化石木ヲ發見シ說ヲ附シテ地質學協會ニ寄贈セリ後屢バ地質上ノ研究ヲナ

於ル